

交通ルールを守って
つながる笑顔



かながわの交通

2013

3

今年の交通安全年間スローガン優秀作(文部科学大臣奨励賞) —こども部門—

点減で 止まれる君は 金メダル



三浦の河津桜(京急三浦海岸駅西方沿線)



自転車はどこを走ったらいいの...? 教えて!

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

チリン・スクール を一緒にやりませんか。



◎県内の交通事故発生概況(25年2月末)

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
平成25年		4,990	24	5,942
平成24年		5,589	21	6,629
増減数		-599	+3	-687
増減率		-10.7	+14.3	-10.4

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,069,042	4,541,098	4,527,944
免許人口	5,537,664	3,220,177	2,317,487
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人

(県人口は平成25年2月1日、免許人口は平成25年1月末現在)

春の全国交通安全運動

すべての県民を交通事故から守るために、県民一人ひとりが交通安全について考え、交通ルールを守り交通マナーの向上に取り組みことを通じて、交通事故防止の徹底を図ります。

1 実施期間

平成25年4月6日(土)～
4月15日(月)の10日間
〈交通事故死ゼロを目指す日 4月10日(水)〉

2 スローガン

◇安全は 心と時間のゆとりから

3 運動の基本

◇新入学児童・園児を交通事故から守ろう
子どもと高齢者の交通事故防止

4 運動の重点

◇自転車の安全利用の推進(特に、自転車安全利用5則の周知徹底)
◇全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

5 交通安全協会の運動の進め方

◇飲酒運転の根絶
◇二輪車の交通事故防止
◇キャンペーンやイベント



などの開催により、運動への参加・協力を呼びかけるほか、地域や職場等での自主的な活動やチリリン・スクール等交通安全講習会への積極的な参加を働きかけます。
◇交通指導員等による街角アドバイスを積極的に実施し、「交通安全ひとここえ運動」を推進します。

新入学児童に“交通安全ABCクリアファイル”を贈呈

春の全国交通安全運動に合わせて、昨年は「あいうえお表」でしたが、今年は「ABC表」として交通事故に遭わないよう、交通安全を学んでいただけるよう県内の新入学児童を対象に、お配りしています。

平塚市交通安全協会では、同市教育委員会において委員長、教育部長立ち会いの下、川口会長から各小学校への配布を依頼しました。(2月25日、平塚市教育委員会)



デジタルフォトフレームで活動紹介

加賀町交通安全協会では、各季の交通安全運動やキャンペーンなど安全協会の活動をデジカメで記録し、窓口カウンターで来場者にデジタルフォトフレーム(お年玉年賀はがき当選景品)により紹介して、広報啓発活動、協会活動への理解に役立てています。また、これをヒントに鎌倉交通安全協会でもリサイクルショップで安価で購入し、そばに飴をプラスして同様に安全協会の活動を放映、紹介したところ、訪れる方から好評を得ているとのことです。



加賀町



鎌倉

第44回二輪車安全運転神奈川県大会 出場選手募集

神奈川県交通安全協会及び神奈川県警察では、二輪運転者の安全運転に関する知識と技能の向上を図り、交通事故を防止することを目的とした二輪車安全運転神奈川県大会を次のとおり開催する予定で出場選手を募集します。奮ってご応募ください。

●開催日時

平成25年5月25日(土) 午前9時から(受付8:00)

●場所

県警運転免許試験場(横浜市旭区中尾2-3-1)

●出場資格

神奈川県内に居住または勤務先を有する方で、大会に出場する二輪車の運転免許を取得していること。

●競技クラス

- ・女性クラス(50CC未満のバイク)
- ・Aクラス(50CC以上400CC未満のバイク)
- ・Bクラス(400CC以上のバイク)
- ・Cクラス(50CC未満のバイク)

※Cクラスについては平成25年8月3日現在20歳未満の方で、高校生はCクラスに限る。参加は無料ですが、1人1クラスに限る。

●出場申込み方法

・警察、交通安全協会、二輪車販売店に備付けの「申込書」により、下記宛て郵送、FAX又はメールでお願いします。

●申込み、問い合わせ先

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-12-15 (公財) 神奈川県交通安全協会
TEL.045-478-0166 FAX.045-475-5524
メール uketsuke@k-manner.co.jp
※詳細は当協会のホームページをご覧ください。



第44回交通安全こども自転車神奈川県大会 及び第2回交通安全高齢者自転車神奈川県大会 出場チーム募集

神奈川県交通安全協会及び神奈川県警察では、こどもと高齢者の自転車の安全な乗り方の向上と交通事故防止を目的とした神奈川県大会を次のとおり開催します。

●開催日時

平成25年7月6日(土) 午前9時から(受付8:30)

●場所

横浜文化体育館(横浜市中区不老町2-7)

●申し込み・連絡先

〒222-0033横浜市港北区新横浜2-12-15
(公財) 神奈川県交通安全協会
TEL.045-478-0166
FAX.045-475-5524



交通安全ポスターコンクール(厚木警察署管内清川村)

愛甲郡清川村では厚木警察署管内交通安全協会等の後援により、村民の交通安全意識の醸成を図るため、村内在住の小・中学生から交通安全ポスターを募集し、コンクールを開催しました。

応募総数179作品の中から最優秀作9点、優秀作9点を選定し、交通安全村民総ぐるみ大会で表彰のうえ、交通安全運動での活用や村内掲示板、役場正面玄関等に掲示して交通安全意識の向上、交通事故防止に役立てています。

紙面の都合上、入選作品のうち最優秀作2作品をご紹介します。(敬称略)

清川村交通安全対策協議会長賞



緑小5年 伊従裕太



緑中1年 山口莉奈

平成25年度二輪車安全運転講習会のお知らせ

神奈川県警察本部と神奈川県二輪車安全普及協会では、二輪車の事故を防止するため、若者から中高年の全ての二輪ライダーを対象に安全運転講習会を開催しています。白バイ隊員や二輪車安全推進委員会特別指導員が実技を指導します。

●二輪車安全運転講習会

- ・主催: 神奈川県警察本部
- ・協力: (公財) 神奈川県交通安全協会、神奈川県二輪車安全普及協会
- ・開催場所: 神奈川県自動車運転免許試験場
- ・開催予定日: 4/13(土)、5/18日(土)、6/8日(土)、6/29(土)、7/20(土)、9/28(土)、10/26(土)、11/16(土)、12/7(土)、1/18(土)の10回

・申込み等詳細は、

<http://www.police.pref.kanagawa.jp/mes/mes0012.htm>

●グッドライダーミーティング

- ・主催: 神奈川県二輪車安全普及協会
- ・協力: 神奈川県警察本部、(公財) 神奈川県交通安全協会
- ・開催場所: 神奈川県自動車運転免許試験場及び厚木中央自動車学校
- ・開催予定日: 4/20(土)、5/11(土)、※7/15(月) ※9/16(月)、10/5(土)の5回
- ※印は、厚木中央自動車学校で開催
- ・申込み問い合わせは、

03-6902-8200(二輪車安全普及協会)

平成24年度交通安全ファミリー作文コンクール入賞作品

佳作 (内閣府政策統括官賞)



秦野市立
西小学校3年
飯田智也

ぼくのお母さんは、僕と同じ三年生の時に、同じくひかれる所を見た事があるそうです。お母さんの前を歩いていたらその子は、横たん歩道の前で走り出して、「キー」とすごい急ブレーキの音がして止まったそうです。その時、うんてんしていたお婆さんは、とび出した子どもの足が後ろタイヤにぶまれていて、「いたい。いたい。」とないているのに、「大じょうぶですか？」とあわてて車からおりてきて、まわりの人に「早く車を動かして。」と言われるまで子どもがどうなっているのかよくわからない様子だったそうです。その子は、足のけが以外は、大じょうぶだったそうです。お母さんは、完全に足のけががなかつた後でも、その子の足のふくらはぎの肉がポコポコになっていて、元気にあそんでいるのを見ても、その足を見ると、交通事故この時の事を思い出して、気もち

がしずんだそうです。三年生の時のうん動会や遠足などの楽しかった事などはほとんど何も覚えていないけど、その事は、よくおぼえていて今でもその道を通ると思い出すと、話してくれました。ぼくは、すぐくこわい思いをして、それがわすれられないのだと思います。だからお母さんは、ぼくが交通事故にあうのはぜつたいにいやで、ぼくが小学生になる前、ようち園の帰り道を小学生になったら通る道にかえて、一人で帰れる練習をさせたのだと思いました。左がわを歩いている時に、左がわにあるわき道から車が来る事もあるので気をつける事。車が来ている時には、うんてん手がぼくに気づいているか見て、「先に通っていいよ。」という合図をくれるまで通ってはいけない事。帰り道の中にある店の所では、バックでちゅう車している車からはとくに子どものすがたが見えづらいから、ちゅう車場の方に入っていかない事をよくくしました。

こにあつたと聞くと、しばらくは注意ぶかく、しんちようになり交通ルールをまもれます。だけど、何日かたつと、わすれてしまつていつも通る道だからとくにきんちようもしないでふざけて通つてしまふ事があります。

今回作文を書くのにお母さんから事を見た話を聞いているだけで、ぼくはこわかつたです。ぼくの同じくう生が事こにあうのを見るなんて、考えただけでもこわいです。この気もちをわすれませぬ。一人一人がいつも交通ルールをまもる事を頭において、ちようどわすれかけている友だちがいたら、「交通ルールをまもろう。」と声をかけあつてみんなが交通事故にあわないうようにしたいです。

※毎年、内閣府、(財)全日本交通安全協会などの主催によりコンクールが開催され、例年7月から9月頃にかけて小学生の部、中学生の部、一般(高校生以上)の部の部門別に募集があります。皆さんも応募して交通安全について考えてみては。

入賞すると副賞として図書カードや賞金(一般の部)がもらえます。

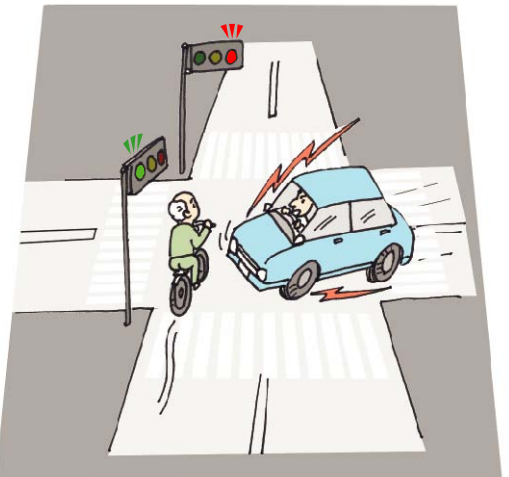
入賞すると副賞として図書カードや賞金(一般の部)がもらえます。

高齢者の死亡事故激増!

県内の交通事故は2月24日現在、発生件数、負傷者数とも減少傾向にありますが、死者数が22人(前年同期比+3人+15.8%)と増加しています。中でも特に、65歳以上の高齢者の死者数が12人(前年同期比+6人+100%)と激増しており、全死者数の54.5%占め、憂慮すべき事態となっています。

そのため県警では高齢者個別訪問や交差点関連違反の取締りを強化するなど特別対策を実施しており、県協会からも石坂会長名により高齢者交通事故防止活動の推進について各地区交通安全協会にお願いをしたところでありますが、増加傾向に歯止めがかかっていません。

今後も、来る春の全国交通安全運動などの街頭活動やキャンペーン等において、「高齢死者12人のうち6人が歩行中、4人が自転車乗用中であること、その10人には信号無視や、乱横断、一時不停止などの交通違反が認められること、夜間における事故にあつてはいずれも反射材を活用していなかったこと」から、これらを踏まえて高齢者死亡事故の実態の周知、交通ルール遵守の呼びかけ等高齢者の交通安全意識の高揚を図ることにより交通死亡事故の抑止に一層のご尽力をお願いします。



交通事故の悲劇に学ぶ②

●一瞬に罪のない人を死へ

学生（19歳）

子供というのは無意識のうちに親不孝をしているものだと思います。私もよく心配をかけたものです。親不孝といってもいろいろありますが、その中で一番大きなものは、子が親よりも先に世を去るということではないでしょうか。私は、その最悪の親不孝を、2軒の何も罪のない幸福な家庭にもたらしてしまいました。家族の人をはじめ多くの人々に迷惑をかけ、不幸のどん底に追い込んでしまったのです。

昭和52年8月22日午前8時33分、雨が降り路面がぬれてすべりやすくなっているのは自分ではわかっていたのですが、駐車々両を追い越すときに、スピードを落とさなかったためにスリップしてしまい、電柱に衝突し同乗中の2人が死亡、1人に重傷を負わせてしまったのです。亡くなられた方は2人とも長男であり、1人は大学の1年生、もう1人は高校の3年生でした。ご両親もいままで苦労して育て、これからが楽しみというときに、尊い生命を失わされてしまい、怒りと悲しみに打ちひしがれました。本当に申しわけないと思っています。

事故は、私の住んでいる団地内にある自治会の行事を手伝っているときでした。雨が降り始めて集まりが悪いため、私が車を借りて会員を集めにいく途中のことでした。家がわからないため2人が同乗してくれました。そして家々をまわって、もう1人の被害者を乗せ次の家に行こうとした途中のことでした。駐車々両が3台ありました。進行方向に2台、反対車線に1台というように、ちょうど「S」字型にぬって走る状態になりました。

はじめ進行方向に止まっているのはわかりましたが、対向車が1台あり反対車線の車が対向車の陰になりわかりませんでした。そして進行方向の車を追い越そうとして、反対車線にでてから反対車線の駐車々両が目に入り、あわててハンドルを左に切りました。そうすると、またそこにも駐車々両があり今度は右にハンドルを切りました。そのとき、急ハンドルを切ったために後のタイヤがすべり、車が真横を向く形で電柱に車

の左側の真ん中が衝突し、「く」の字形に曲がってしまいました。

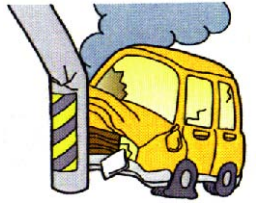
それは本当に一瞬の出来事でした。衝突したとき、とても口では言い表せないような音がしました。そして電柱の向こう側にあったブロックベ이가こなごなに壊れ落ちました。フロントガラスもこなごなに吹き飛びました。それでも私の意識だけははっきりとしていました。顔から血が本当にどくどくと流れていました。鼻がとれているようでした。ひざからも血が流れていました。私はフロントガラスの所から車の外へ出ました。助手席の人はただぐったりとしていました。後からは「痛い、痛い」という泣き声がきこえました。車の外へ出たときにはもう多数の人が集まっていました。私は救急車を呼んで下さいと頼みました。そして車のドアを開けて下さいと頼みましたが、ドアはあきませんでした。あいかわらず車の中からは痛い痛いという泣き声がきこえています。

そのうち、雨の中からサイレンの音とともに救急車が見えてきました。そして同乗者の人を車から救急車に乗せて病院へと行きました。その救急車の去るのを見てただ祈るばかりでした。そのうちに友達が来てくれました。私は「だいじょうぶだね」と言うばかりでした。現場検証がすみ、私も病院へ行きました。ひざがぱっくりと切れ骨が見えているようでした。病院について待っているとき、いままでは気が張っていたのですが、一度座わるともう立てませんでした。そこで1人が亡くなったときかされました。私が入院して3日目に、もう1人が亡くなったときかされました。眼の前が真っ暗になりました。

今はただただ被害者のめい福を祈るばかりです。これからは亡くなられた人の分も一生懸命に生きようと思います。

－(財)東京交通安全協会編集発行

「贖いの日々(15集)」から－



インフォメーション

●春の全国交通安全運動オープニングセレモニー

————— 4/6 赤レンガ倉庫

●春の全国交通安全運動

————— 4/6～15 各地

●交通事故死ゼロを目指す日

————— 4/10 各地

賛助会員のご紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- 日産自動車(株)横浜工場
————— 横浜市神奈川区宝町2
- 横浜トヨペット(株)
————— 横浜市中区山下町33
- 京濱港運(株)
————— 横浜市神奈川区千若町2-1-50
- (株)崎陽軒
————— 横浜市西区高島2-13-12
- 高梨販売(株)
————— 横浜市旭区本宿町5



ハンドルキーパー運動の紹介

その278 緑交通安全協会

緑交通安全協会(岩岡紀一会長)では、警察署、区役所、安管、母の会、料飲連合組合等と協力し、JR中山駅周辺の飲食店を訪問し、飲酒運転の根絶とハンドルキーパーの実践を呼びかけて、ミニ幟旗等を配布しました。



その277 港南交通安全協会

港南交通安全協会(高森政雄会長)では、京急上大岡駅前大岡中央商店街において、飲酒運転根絶キャンペーンを展開し、通行人、買物客に飲酒運転追放、ハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その280 瀬谷交通安全協会

瀬谷交通安全協会(渋川正継会長)では、瀬谷警察署と協力のうへ「飲酒運転根絶」の幟旗を携行し、相鉄線三ツ境駅周辺の飲食店を訪問して、店長又は従業員に啓発物を配布しながらハンドルキーパー運動への理解と実践を呼びかけました。



その279 戸塚交通安全協会

戸塚交通安全協会(齋藤行夫会長)では、JR戸塚駅東口広場で飲酒運転根絶キャンペーンを実施し、同駅周辺商店街の飲食店に対しハンドルキーパーバッジや飲酒運転根絶トイレロールを配布しながらハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その282 足柄交通安全協会

足柄交通安全協会(鈴木真徳会長)では、JR松田駅前広場において同駅利用者に対し、飲酒運転根絶を呼びかけた後、同駅周辺の飲食店を訪問し、啓発グッズを配布しながらハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その281 藤沢北交通安全協会

藤沢北交通安全協会(富田衛会長)では、相鉄線湘南台駅周辺の飲食店を訪問し、「ハンドルキーパー」ステッカーやチラシ、ポスターを配布しながら飲酒運転の根絶と車両来場者に対するハンドルキーパーの確保を呼びかけました。



企画安全委員会の開催

2月25日(月)、企画安全委員会が県交通安全協会会館において開催されました。会議には、須藤委員長をはじめ、委員8名の方々の出席を得て、平成25年度の県協会の事業計画等について審議・報告が行われました。主な審議・報告案件は次のとおりです。

- 平成25年度「公益財団法人神奈川県交通安全協会事業計画」について
- 「第44回交通安全子ども自転車神奈川県大会」、「第2回交通安全高齢者自転車神奈川県大会」及び「第44回二輪車安全運転神奈川県大会」開催について
- 「平成25年度二輪車安全運転指導員養成講習会・資格審査」及び「平成25年度自転車安全教育指導者講習」の実施について
- 交通安全資器材等のレンタルサービスについて





田浦交通安全協会
会長
高戸 輝男さん



田浦交通安全協会は、昭和24年発足、昭和36年田浦警察署横に隣接して移転してから50年以上が経過します。

今回はこの田浦交通安全協会第12代会長として活躍中の高戸輝男さんをご紹介します。

会長は、地元生まれで、親の代からの仕事を引き継ぎ、田浦町において建築業を営まれておりますが、跡継ぎの息子さんも1級建築士の資格を持ち頼りになる存在で、仕事はもちろん、安全協会の活動についても奥様と息子さんに支えられているとのこと。会長自身、温厚ながらも責任感旺盛で、腰が軽く親分肌のところがあり、警察署をはじめ各団体の方からとても頼りにされています。

当交通安全協会が活動するきっかけは、当時、交通事故による死者数が日清戦争の日本側戦死者を超える勢いで増加していたことから、「交通戦争」と呼ばれていた時代の昭和43年に、交通指導員をしていた仕事仲間から誘われたことでした。当時は、現在よりも道路環境も悪いうえ、当協会地区内にある日産自動車や住友重機械工業などの会社工場を往来する車両などで交通量も多く、交通事故が多発する中で、国道16号線などのスクールゾーンにおける毎週月曜日の小学生の登下校時の保護誘導、街頭指導などを中心とした奉仕（ボランティア）という言葉は、一

般的ではなかった。活動等で忙しかった思い出があり、父親の理解もあつて続けられた記憶があるとのこと。その後、交通指導員連絡部の部長、交通安全協会副会長を歴任し、昨年6月に茂原会長の後任として会長に就任しました。

田浦警察署管内は、国道16号を幹として県道、市道が枝のように延びており、交通事故は昨年も減少、今年も減少傾向が続いておりますが、会長は、1,385日続いていた「交通死亡事故ゼロ」が昨年11月途切れてしまったことに、「心の緩みがあった」と反省しながら、悔しさをにじませています。

これまでのように年間の事業計画に基づいて、警察署や各団体と連携しながら幼稚園児を1日警察官に委嘱したり、夏から大根栽培を計画・依頼して冬に配布する「事故大根絶」、「飲酒大根絶」キャンペーン等の活動を積極的に展開していく所存であります。当協会の最大の課題は、免許人口の減少等に伴う会員の減少であると考えています。

そのため、会員獲得のための窓口対応はもちろん、連合町内会、自治会、各企業への働きかけ等をしていく方針ですが、会長がモットーとする「まずは健康」を第一として、今後もご活躍願えればと思います。

取材提供：田浦交通安全協会

こんにちは
「平塚市交通安全協会」です

平塚は、かつては東海道五十三次の宿場町として栄え、現在はJR東海道線平塚駅を中心に発展を続けています。国道1号線が市内を横断しており、平塚市交通安全協会としては、例年どおり今年も大学駅伝が仕事始めになりました。

当協会には、現在28の支部があり、302名の交通指導員が市内28小学校の通学路に立ち、学童登下校時の交通安全に努めており、特に「湘南ひらつか七夕まつり」では、交通指導員が毎年交通対策に活躍、貢献しています。また、毎月1日の交通安全の日、毎月15日の高齢者交通安全の日、各季の交通安全運動期間中は交通指導員の街頭活動はもちろん、役員が毎朝1時間、各支部広報部長も午後1時30分より2時間広報を行うほか、警察署、市交対協、各団体等と連携して『マナー“アップル”（リンゴ）』や『事故ゼロ（梨）』等と銘打って果物を配布するキャンペーンを実施するなど、各種活動を積極的に展開しています。

どこでも自転車利用者のルール無視やマナーの低下、それに伴う自転車事故には頭を悩ませていることと思えますが、人口26万人の平塚市には、鉄道駅が一つしかなく、ことに市内全域が平坦で、自転車に乗りやすい環境にあるため、自転車利用者が多く、必然、自転車に関する事故も多発しましたので、平成22年に平塚警察署のご指導をいただき、官民が協同・連携して「自転車事故減らし隊」を結成、活動を始めました。

その活動はどのようなものかと申しますと、昨年は、市内の高校全8校を訪問し、自転車マナーアップキャンペーンや街頭活動を行ってルールやマナーについて指導したほか、自転車商組合の方々の協力を得て、点検整備を行い、交通事故防止、交通安全意識の向上に努めました。

この試みは、バイクでも実施いたしました。平塚市には、私立大学が2校あります。大学当局のご理解を得て学生とタイアップし、学校敷地内でバイクのみならず自転車についても点検整備を試み、交通安全指導を行いました。これらの大学、高校に対する活動のほか、高齢者事故防止体験教室の中でも自転車事故の防止



に重点を置いて取り組んだことなどにより、昨年は自転車事故の大幅減少という成果を上げるとともに、昨年1年間「交通死亡事故ゼロ」という統計史上初めての快挙を達成することができ、その記録は2月15日現在も更新中であります。

これらの活動や交通事故情勢などについては、毎年、広報誌「むいはん」を発行し、自治会の回覧などを通じて市民のみなさまに回覧いただいて安全協会の活動への理解と交通安全を呼びかけておりますが、今後は、一段と進展する「高齢化社会」にいかに向き合っていくか、高齢者の事故防止、若者の免許取得率の向上などにどのように取り組んでいくか、が課題となってまいりました。

（渡邊 記）

地区交通安全協会の活動紹介



青葉
日体大生と地域住民約1,400人が見守る中、交通安全教室（スケアドストリート）を実施して自転車事故の危険性、怖さを訴え、交通安全意識の高揚を図りました。



宮前
二普協、整備振興会、交対協、警察とともに、森林公園駐車場に二輪車を誘導し、啓発物を配布しながら整備状況等を含めて二輪運転者への指導を実施しました。



逗子市
県立逗子高校生6人の協力を得て、JR逗子駅前広場において交通安全キャンペーンを行い、塾に向かう子ども達に交通事故に遭わないよう呼びかけました。



大和綾瀬
綾瀬市役所前交差点において、交通安全キャンペーンを行い、通行車両にハンドプレートや幟旗で飲酒運転の危険性を訴え、飲酒運転の根絶を呼びかけました。

南
二輪車事故が多発していることから南警察署と連携して、警察署前において通行する二輪運転者に対し、チラシを配布しながら二輪車事故防止を呼びかけました。



高津
溝口駅前前道において、「ダメ飲酒運転」のハンドプレートを通行中のドライバーに示し、交通ルールの遵守、特に飲酒運転の根絶を呼びかけました。



浦賀
警察署、ディーラー協と連携し、国道134号夫婦橋交差点において、シートベルト装着を呼びかけるなど、交通事故防止キャンペーンを実施しました。



秦野市
秦野橋付近で自転車事故防止キャンペーンを行い、通行中の自転車利用者へ自転車安全利用5則、高額賠償事例チラシを配布しながら街頭指導を実施しました。



編集後記

何か事をなすときには、事前に十分な検討をしてから行いなさい。とは、誰しも過去に度は言われたことがあると思います。特に、今まで永く続いていたものに手をつける時には、よほどの効果がどのようになるのかの「先読み」が必要でしょう。

4年前国民の大きな期待を背負って民主党政権が誕生し、掲げたマニフェストを実現すべく努力しましたが、無駄を省けば何とかなるとした財源がネックとなり、尻つぼみとなったことは、まさに「言うは易く行は難し」でありました。

世間一般では、当初の思惑と違うなどということは、日常茶飯事でありますが、こと、国政となるとその影響力の大ききから「目算違いでした」ではすまないようでありたい。

日本国内外とも問題山積ではあります。新政府には是非とも、しっかりとした舵取りを期待したいものです。さて、続いていると言えは、県下の人身交通事故の発生件数・負傷者数ともに12年連続で減少となりました。交通事故が、重大事故になるか軽傷ですむかは、運不運も影響するので事故そのものを減少させることが、何より大事なことでありたいと思います。

これだけ事故が連続減少しているのには、いろいろな要因があると思えますが、発生した事故の状況を分析し、これに基づいて官民一体となった安全活動、広報啓発活動がしっかりと行なわれたことも、そのひとつであると思えます。昨年中は、歩行中の高齢者の事故、二輪車の事故が多かったため、当協会にあつても、ここに焦点をあてた、交通安全啓発活動に頑張っていきたいと思えます。

(國分 記)